

令和5年度

半田中学校 「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ①基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る指導の工夫
- ②表現力を高める学習活動の充実

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 西森佑理香	委員	校長:川口徹 教頭:多田千洋 教務:永尾美幸 学力向上推進員:西森佑理香 1年主任:横田真衣 2年主任:源健人 3年主任:大野美佐 国語主任:庄野薫 数学主任:西森佑理香
	校長	川口 徹

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題には、真面目に取り組むことができる生徒が多い。 ●基礎基本の定着が不十分な生徒や家庭学習の習慣が身につけていない生徒がいる。	・基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。	・各教科において、定期的な課題や確認テスト、反復練習を効果的に行う。 ・ICTなどを効果的に活用し、すべての生徒が学びやすい授業を実施する。	・振り返りシートを用いて学んだことを文章でまとめる活動を積極的に行う。	・課題や小テストは各教科で適宜実施した。 ・電子黒板を使い、デジタル教科書を有効に活用でき、時間短縮できた。また、タブレットを使った課題の提出は、個々の生徒の理解度を知ることができた。	・朝自習の時間に、普段のプリント学習と合わせて、早く終わった人にはタブレットにあるドリル機能を活用することで、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、友達の意見を聞いたりすることができる。 ●自分の考えなどを、根拠を明らかにしながら筋道を立てて表現することは十分ではない。	・根拠や理由を明らかにしながら、自分の考えをわかりやすく他者に伝えることができる。 ・話し合い活動を通して、気づいたり、考えたりしたことを表現することができる。	・ICT機器やホワイトボードなどを活用し、話す聞くなどの言語活動を行い、表現力を身につけられるようにする。 ・学習形態を工夫しながら話し合いや学び合いの場を設け、発表する機会を増やす。	・意見を伝え合う方法や形態を工夫するとともに、書かれたものを読み理解する場面を増やす。	・ホワイトボードなどを使った話し合い活動は行うことができたが、表現力を身につけることは十分にはできていない。 ・発表の機会を増やすことはできたが、話し合いや学び合いの時間を十分とることができていない。	・自分の考えを書くことが苦手な生徒が、タブレットを利用することで表現できるようにする。 ・言葉による表現に課題があるため、鳴潮書き写しノートを使用したり、生活記録の内容を充実させたりすることで語彙力・表現力を伸ばす。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○授業中、落ち着いて学習に取り組む、内容を理解しようと努力している。 ●苦手な学習内容に対して、粘り強く学習に取り組むことができない生徒がいる。	・目標をもち、それを達成するために、主体的に課題や自主学習に取り組むことができる。	・各教科や学級活動など機会を捉えて「学習の手引き」を示し、主体的な学習方法を身につけられるようにする。 ・それぞれの教科で授業の目標の明示と振り返りを行う。	・タブレット等を利用して興味・関心を引きつけるなど、生徒が自分で課題に取り組める工夫をする。	・「学習の手引き」を各教科で活用できたが、もう少し工夫する必要がある。 ・授業の目標の明示と振り返りを意識した授業づくりに取り組んだが、振り返りの時間が十分に取れない場面もあった。	・「学習の手引き」を見直し、有効活用できるようにする。 ・主体的に課題に取り組むことはできるが、個人差が大きいので、個別指導を行ったり、学習の見直しをもたせたりして、学習の調整ができる生徒を育てる。

令和5年度 学力向上ロードマップ

